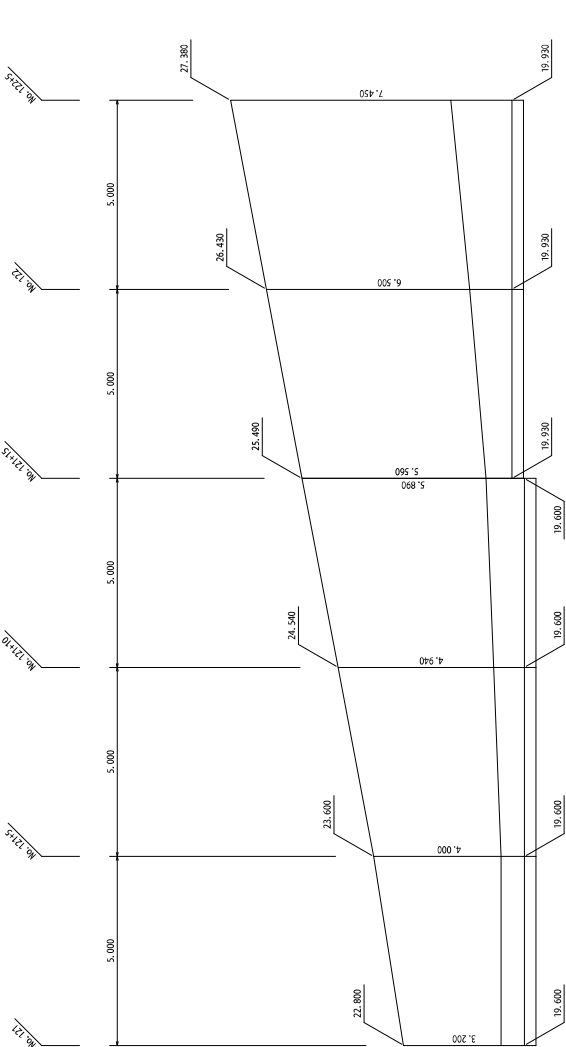


擁壁展開図の作成

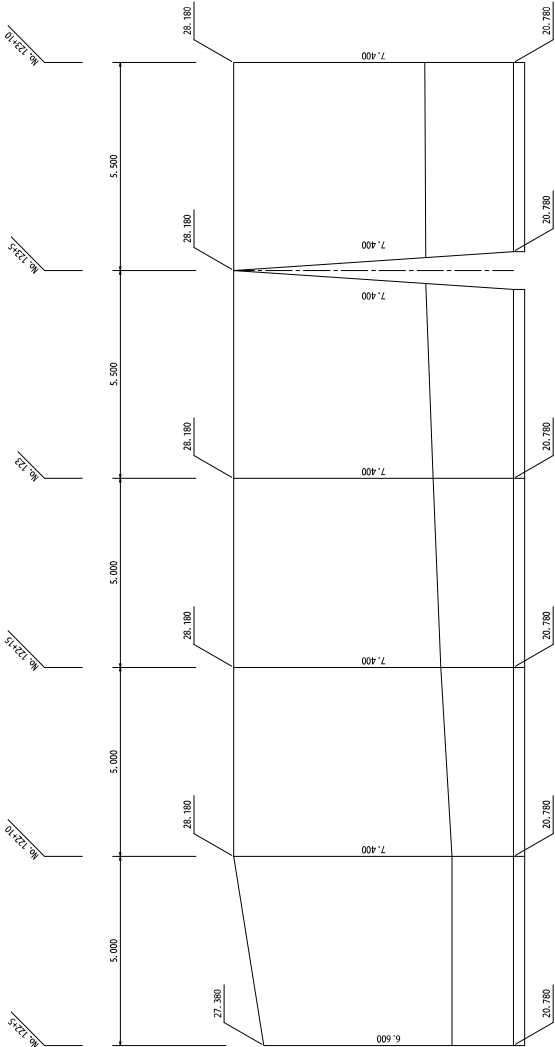
擁壁展開図を作成する操作手順を解説します。
本書では、上距離・下距離・擁壁長などをすべて手入力して、
次ページのような擁壁展開図を作成する例で解説します。



※解説内容がオプションプログラムの説明で
ある場合があります。ご了承ください。



測点名	平均長	平均面積	面積
No. 121	()	()	()
No. 121+5	3,600	5,000	18,000
No. 121+10	4,470	5,000	22,350
No. 121+15	5,415	5,000	27,075
No. 122	6,030	5,000	30,150
No. 122+5	6,975	5,000	34,875
No. 122+10	7,000	5,000	35,000
No. 122+15	7,400	5,000	37,000
No. 123	7,400	5,000	37,000
No. 123+5	7,400	5,250	38,850
No. 123+10	7,400	5,250	38,850
合計面積			319,150



工事名	擁壁展開図サンブル工事		
図面名	擁壁展開図		
作成年月日	平成25年3月25日		
縮尺	100	図面番号	1 / 1
会社名	□□□□□		
事業者名	△△△△△		

1. 入力例の説明	1
2. 作業現場情報の入力	2
2-1 [現場管理]を起動する	2
2-2 工区を作成する	3
2-3 現場を作成する	4
3. 擁壁データの入力	5
3-1 [擁壁展開図]を起動する	5
3-2 計算・表示の丸めを設定する	6
3-3 擁壁データを入力する	7
3-4 面積を確認する	10
3-5 計算書を作成する	11
3-6 [擁壁展開図]を終了する	13
4. 擁壁展開図の作成	14
4-1 [CAD]を起動する	14
4-2 CAD製図基準(案)のレイヤを設定する	15
4-3 展開図スタイルを設定する	17
4-4 展開図を配置する	18
4-5 図枠を配置する	21
4-6 表題欄を配置する	22
4-7 CAD製図基準チェックをする	23
4-8 SXFデータに保存する	25
5. 現場データの保存	26
5-1 現場データを保存する	26

1 入力例の説明

本章では、下記に示す流れに従い、[擁壁展開図]でデータを入力し、[CAD]で擁壁展開図を作成します。

作業現場情報の入力 (P.2)

- ・ 現場情報を入力する。

擁壁データの入力 (P.5)

- ・ 丸めの設定を行う。
- ・ 擁壁データを入力する。
- ・ 計算書を作成する。

擁壁展開図の作成 (P.14)

- ・ レイヤ、作図のスタイルを設定する。
- ・ データを読み込んで、配置を設定する。
- ・ 擁壁展開図を作成し、求積表を配置する。
- ・ 図枠、表題欄を配置する。
- ・ CAD製図基準(案)に沿っているかをチェックして修正する。

現場データの保存 (P.26)

- ・ 現場データを保存する。

プロッター・プリンターへの出力

- ・ 作図した擁壁展開図をプロッター・プリンターへ出力する。

2 作業現場情報の入力

[TREND-ONE 現場管理]では、TREND-ONEで作成したデータを管理します。
作業現場情報を詳細に入力することで、複数の現場（または図面）が管理しやすくなります。
また、複数の現場をまとめた「工区」という単位で管理することもできます。
工区は、作業現場の地区や時期などの条件によって分類することをお勧めします。

2-1 [現場管理]を起動する

[TREND-ONE 現場管理]を起動します。



1 デスクトップ画面で[TREND-ONE 現場管理]をダブルクリックします。



2-2

工区を作成する

関連のある複数の現場データをまとめる単位として[工区]があり、親工区とサブ工区に分けて現場データを階層管理することもできます。

工区には名称をつけることができ、作成できる工区数にも制限はありません。(ハードディスク容量に依存)

工区で現場を分けることや現場情報を詳細に入力することにより、現場データを管理しやすくなります。

(工区の使用例：担当者別、発注者別、地区別、年度別、月別)

注意

現場の詳細は現場データを少なくとも1度は保存しなければ設定できません。



- 1 [ホーム]タブをクリックします。
- 2 [工区]グループ-[工区作成]をクリックします。
- 3 [工区名]を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。

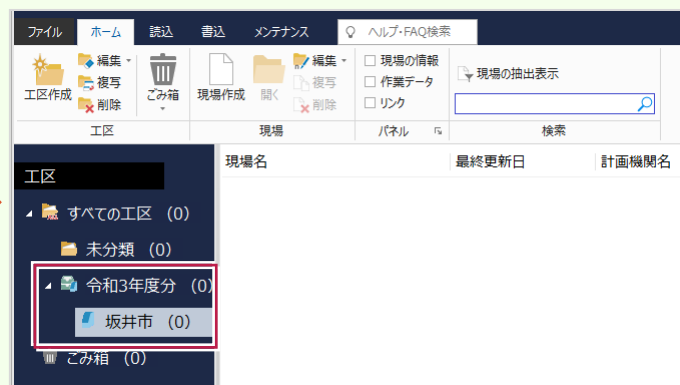
メモ

工区の階層化について

[サブ工区として作成する]にチェックを入れて、所属工区で親工区を選択することにより、親工区とサブ工区の2階層で仕分けすることができます。

工区数が多くなった場合でも管理がしやすくなります。

(下図の例では、親工区を「令和3年度分」、サブ工区を「坂井市」と設定しています。)



2-3

現場を作成する

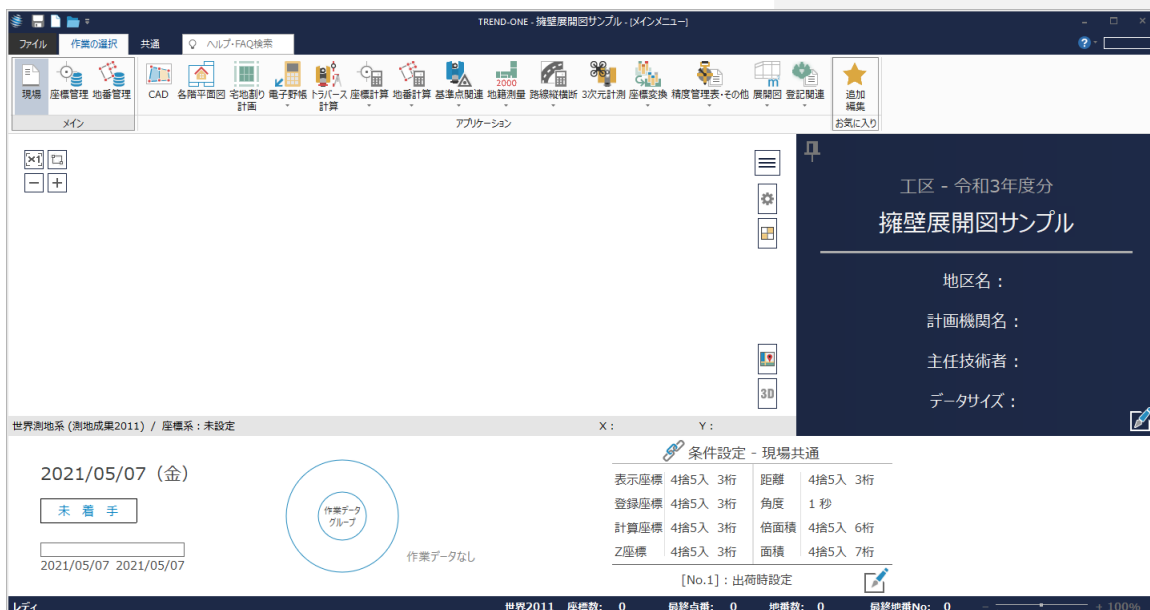
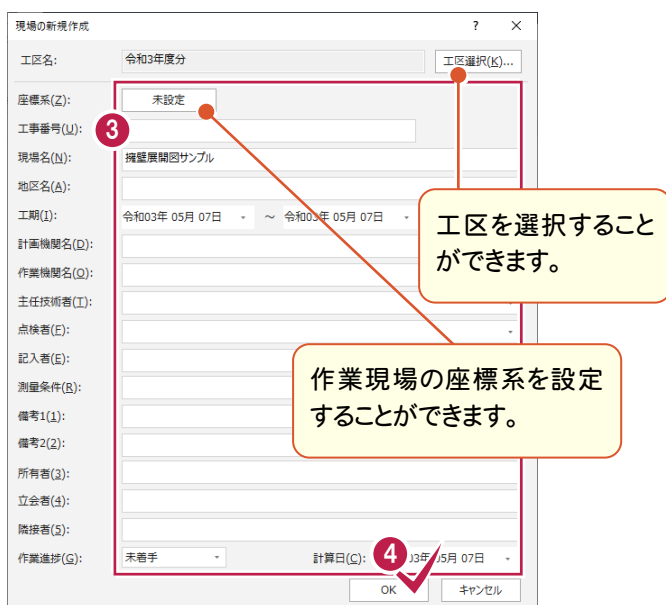
現場を作成します。



- 1 入力した工区をクリックします。
ここでは工区を新規作成したため、現時点では現場が存在しません。
- 2 [現場]グループ-[現場作成]をクリックします。
- 3 [現場名]など、必要な項目を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。
メインメニューが起動します。

メモ 起動モードについて

サーバーインストールした場合、ここで現場占有か現場共有かを選択することが可能です。詳細はマニュアル「共同作業の運用方法」を参照してください。



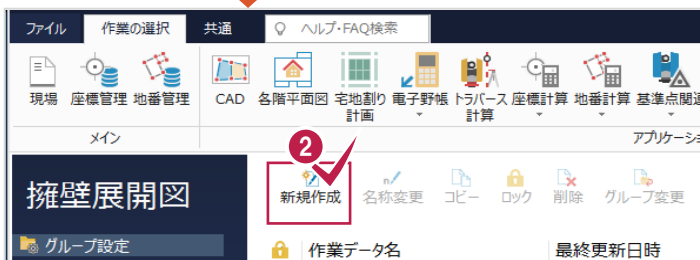
3 擁壁データの入力

〔擁壁展開図〕でデータを手入力し、面積を確認します。

3-1 〔擁壁展開図〕を起動する



1 〔作業の選択〕タブー〔アプリケーション〕グループー〔展開図〕ー〔擁壁展開図〕をクリックします。

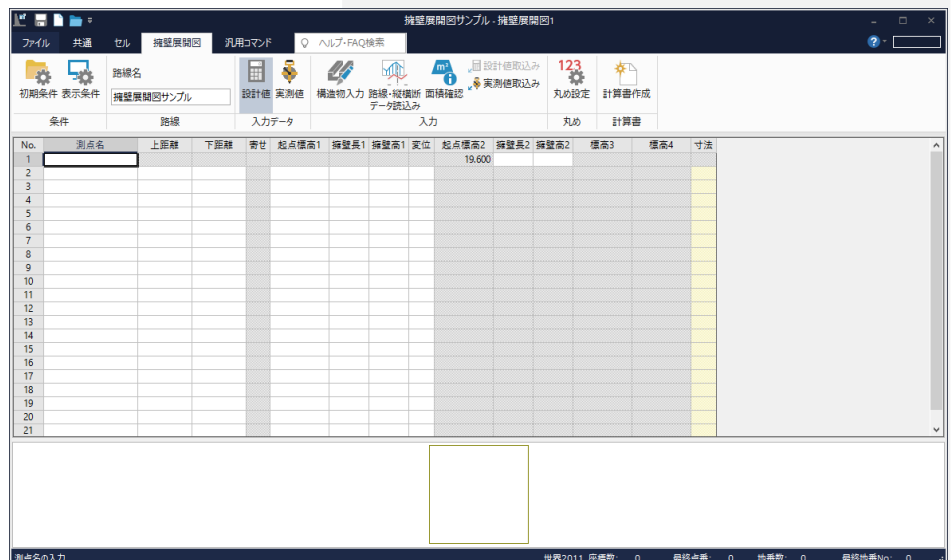


2 〔新規作成〕をクリックします。
〔初期条件〕ダイアログが表示されます。



3 ここでは、次のように入力します。
〔路線名〕: 擁壁展開図サンプル
〔擁壁高入力の基準位置〕: 〔底面高〕
〔初点起点標高値〕の〔設計値〕: 19.6
// 〔実測値〕: 19.6
〔前面勾配〕: 0
〔擁壁高を構造物より連動〕: チェックオフ

4 〔OK〕をクリックします。





「セルの固定」について

「セルの固定」とは、Enter キー、Tab キーでセルのフォーカスを移動しないように（アクティブセルにならないように）データ入力を補助する機能です。

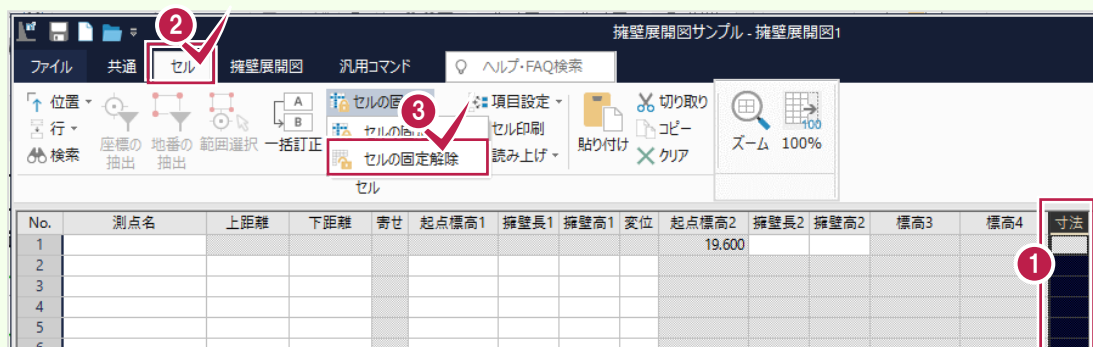
セルを選択状態にして[セル]タブ-[セル]グループ-[セルの固定]で設定することができます。

固定されたセルは出荷標準の設定では「黄色」で表示されます。



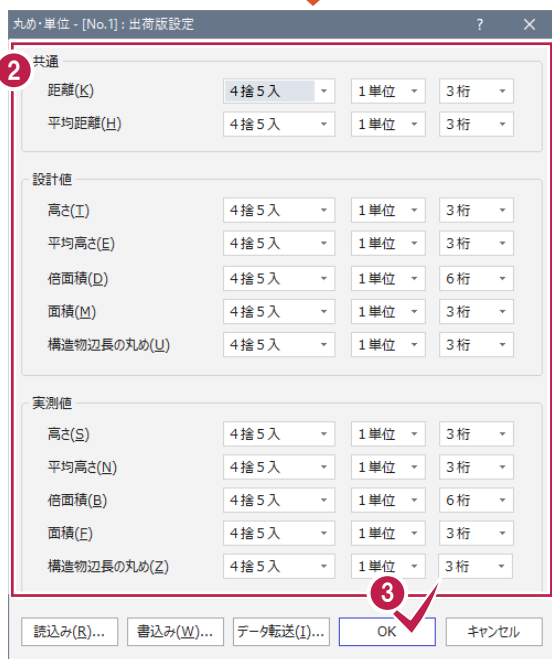
「セルの固定」の解除法

固定されたセルを選択状態にして[セル]タブ-[セル]グループ-[セルの固定]-[セルの固定解除]をクリックします。



3-2

計算の丸めを設定する



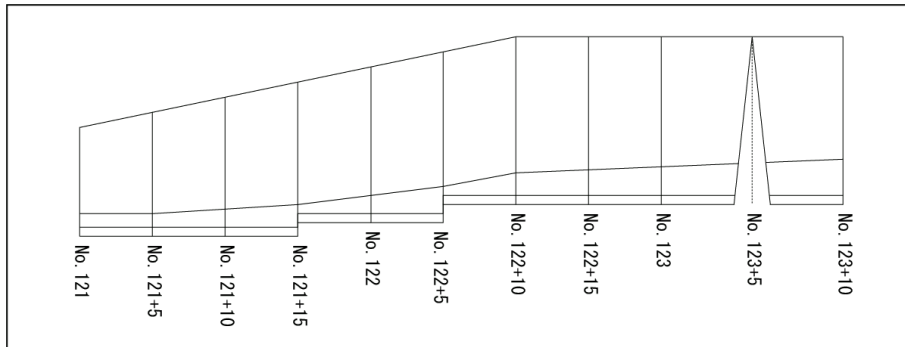
1 [擁壁展開図]タブ-[丸め]グループ-[丸め設定]をクリックします。

2 各項目の設定を確認します。

3 [OK]をクリックします。

3-3 擁壁データを入力する

下図の擁壁データを入力します。

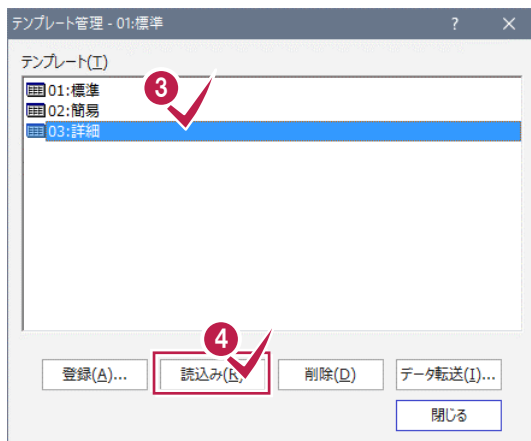
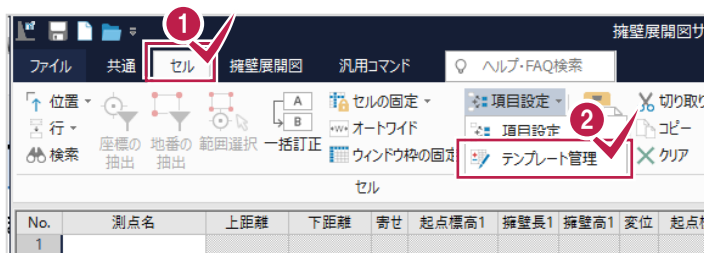


テンプレートを読み込む

最初に、テンプレートを読み込みます。

標準の設定では「底面厚さ」や「根入れ」等のデータを入力する項目がありません。

ここでは「詳細テンプレート」を読み込むことで、項目を追加します。



- 1 [セル]タブをクリックします。
- 2 [セル]グループ-[項目設定]-[テンプレート管理]をクリックします。
- 3 「03:詳細」を選択します。
- 4 [読み込み]をクリックします。

「No.121」を入力する

1つの作業データには[設計値]と[実測値]の2つのデータを入力することができます。
ここでは設計値として入力します。

[擁壁高2]は[擁壁長2]から自動計算されます。

1 [擁壁展開図]タブをクリックします。

2 1行目に次のように入力します。
[測点名]:No.121
[擁壁長2]:3.2
[底面厚さ]:0.3
[根入れ]:0.62

No.	測点名	上距離	下距離	寄せ	起点標高1	擁壁長1	擁壁高1	変位	起点標高2	擁壁長2	擁壁高2	標高3	標高4	底面厚さ	根入れ	根入れ地盤高	寸法
1	No.121								19.600	3.200	3.200		22.800	0.300	0.620	20.220	

「No.121+5」を入力する

[下距離]は[上距離]から自動計算されます。

[擁壁高1]は[擁壁長1]から自動計算されます。

1 2行目に次のように入力します。

[測点名]:No.121+5
[上距離]:5
[起点標高1]:19.6
[擁壁長1]:4
[底面厚さ]:0.3
[根入れ]:0.62

No.	測点名	上距離	下距離	寄せ	起点標高1	擁壁長1	擁壁高1	変位	起点標高2	擁壁長2	擁壁高2	標高3	標高4	底面厚さ	根入れ	根入れ地盤高	寸法
1	No.121								19.600	3.200	3.200		22.800	0.300	0.620	20.220	
2	No.121+5	5.000	5.000		19.600	4.000	4.000		19.600	4.000	4.000	23.600	23.600	0.300	0.620	20.220	

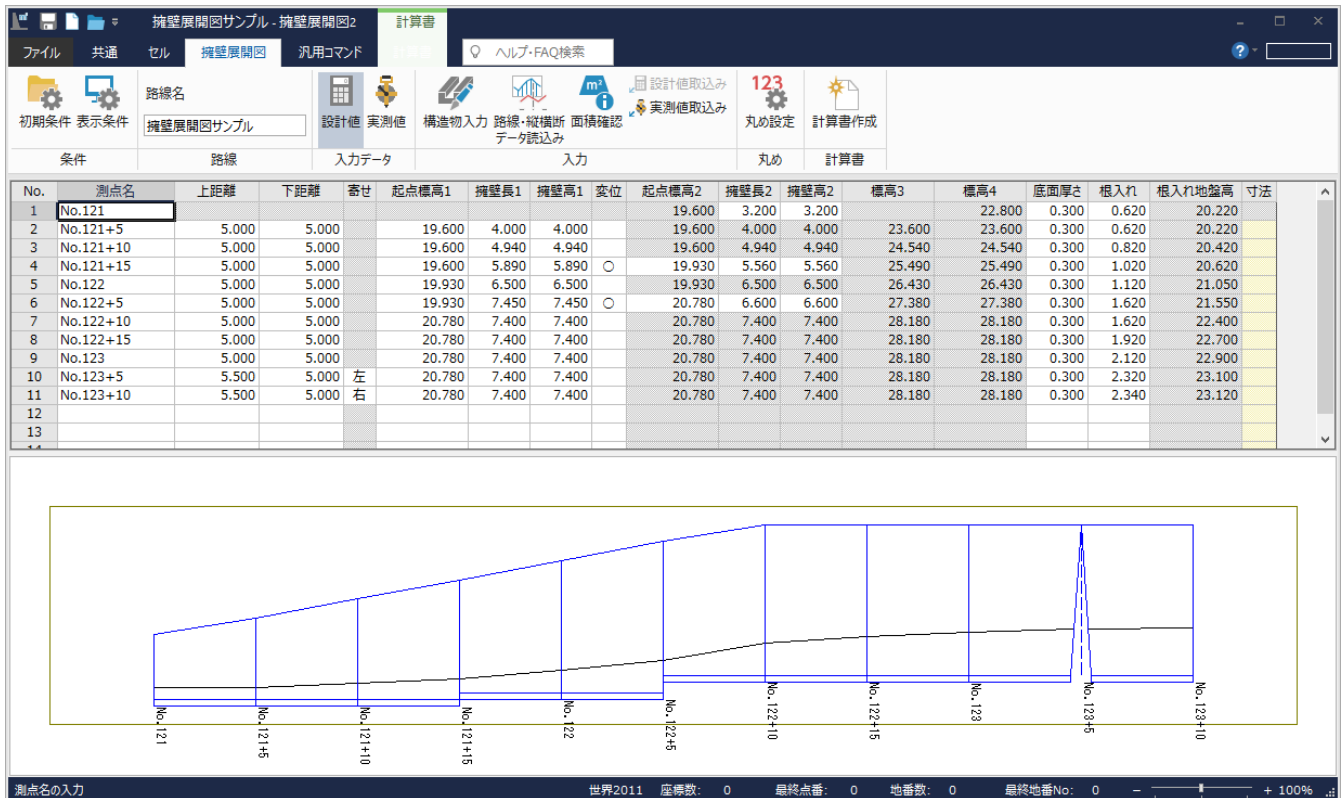
残りのデータを入力する

No.	測点名	上距離	下距離	寄せ	起点標高1	擁壁長1	擁壁高1	変位	起点標高2	擁壁長2	擁壁高2	標高3	標高4	底面厚さ	根入れ	根入れ地盤高	寸法
1	No.121								19.600	3.200	3.200		22.800	0.300	0.620	20.220	
2	No.121+5	5.000	5.000		19.600	4.000	4.000		19.600	4.000	4.000	23.600	23.600	0.300	0.620	20.220	
3	No.121+10	5.000	5.000		19.600	4.940	4.940		19.600	4.940	4.940	24.540	24.540	0.300	0.820	20.420	
4	No.121+15	5.000	5.000		19.600	5.890	5.890	○	19.930	5.560	5.560	25.490	25.490	0.300	1.020	20.620	
5	No.122	5.000	5.000		19.930	6.500	6.500		19.930	6.500	6.500	26.430	26.430	0.300	1.120	21.050	
6	No.122+5	5.000	5.000		19.930	7.450	7.450	○	20.780	6.600	6.600	27.380	27.380	0.300	1.620	21.550	
7	No.122+10	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	1.620	22.400	
8	No.122+15	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	1.920	22.700	
9	No.123	5.000	5.000		20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.120	22.900	
10	No.123+5	5.500	5.000	左	20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.320	23.100	
11	No.123+10	5.500	5.000	右	20.780	7.400	7.400		20.780	7.400	7.400	28.180	28.180	0.300	2.340	23.120	

[上距離]と[下距離]が異なります。

[寄せ]は、ダブルクリックまたはスペースキーで、「中央」→「右」→「左」を切り替えられます。

[変位]は、ダブルクリックまたはスペースキーで、「○」と空白を切り替えられます。



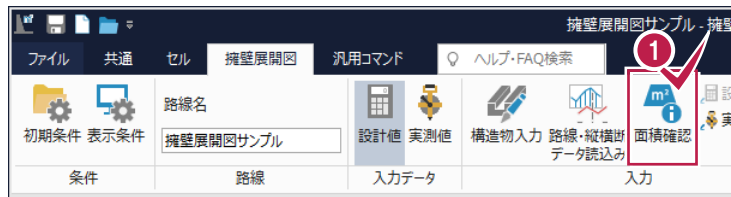
路線測量・縦横断測量データからの連動

ここではデータを手入力しましたが、[擁壁展開図]では[擁壁展開図]タブー[入力]グループー[路線・縦横断データ読み込み]コマンドで路線測量データ、縦横断測量データを読み込むことができます。

点名が[測点名]に、単距離が[上距離][下距離]に連動します。

3-4

面積を確認する



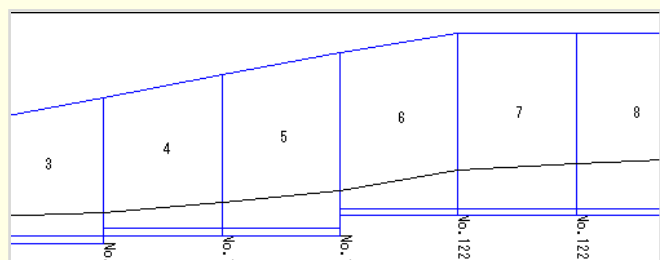
1 [擁壁展開図]タブ→[入力]グループ→[面積確認]をクリックします。

2 [求積方法]が[平均幅員]の面積を確認します。

3 [求積方法]の[ブロック求積]をクリックします。

4 [求積方法]の[ブロック求積]をクリックします。

5 [求積方法]が[ブロック求積]のときは、CADビューにブロック番号が表示されます。



求積方法について

【平均幅員】

1. 「擁壁長 1」「擁壁長 2」を高さの丸めで、「上距離」「下距離」を距離の丸めで丸めます。
2. (擁壁長 1+擁壁長 2)÷2 を計算し、平均高さの丸めで丸めます。
3. (上距離+下距離)÷2 を計算し、平均距離の丸めで丸めます。
4. 2 の結果×3 の結果を計算し、面積の丸めで丸めて面積を求めます。

【ブロック求積】

1. 「擁壁長」の方向が各ブロックの上辺、下辺になります。高さの丸めで丸めます。
2. 「上距離」「下距離」の方向が各ブロックの高さになります。距離の丸めで丸めます。
3. (上辺+下辺)×高さ÷2 を計算し、面積の丸めで丸めて面積を求めます。

3-5

計算書を作成する

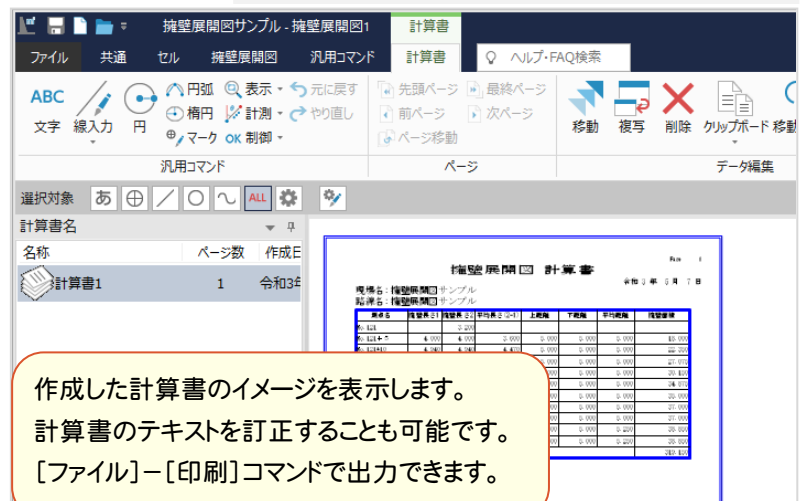
擁壁展開図の計算書を作成します。ここでは平均幅員用の計算書を作成します。



① [擁壁展開図]タブ-[計算書]グループ-[計算書]をクリックします。

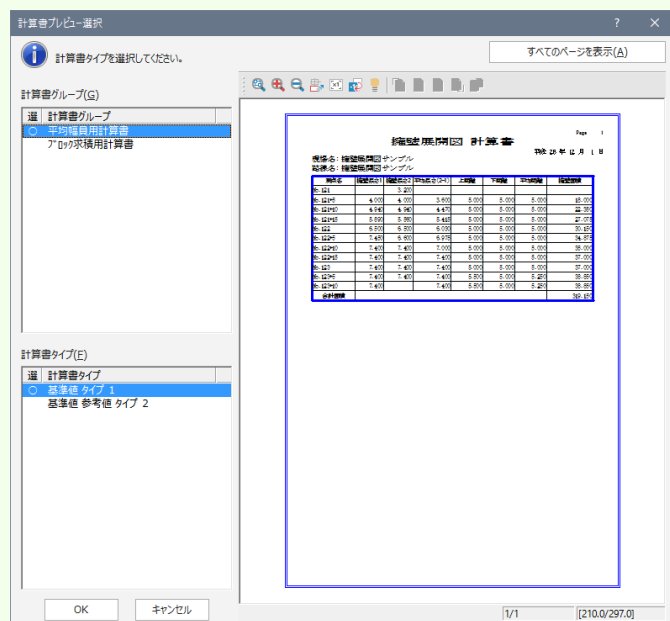
② 次のように設定します。
[計算書グループ]: 平均幅員用計算書
[計算書タイプ]: 基準値 タイプ1
[計算書作成]: [計算書を保存する]

③ [OK]をクリックします。
計算書が作成されます。



メモ プレビュー選択について

作成する計算書をプレビューで確認することができます。





計算書のページ番号について

[計算書]タブ-[データ編集]グループ-[ページ通し]-[ページ番号]コマンドで、作成した計算書の現在のページから最終ページまで、一括で新たにページ番号を付けたり、付け直したりすることができます。

詳しくはヘルプを参照してください。

■新しくページ番号を付ける場合の例

■ページ番号を付け直す場合の例

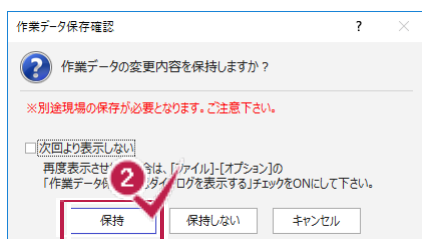
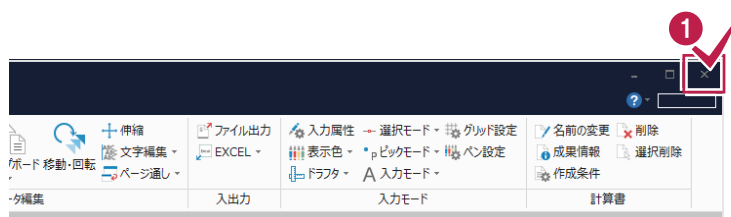


複数の計算書を削除するには

[計算書]タブ-[計算書]グループ-[選択削除]コマンドで、複数の計算書を選択して削除することができます。

3-6

[擁壁展開図]を終了する



1 [閉じる] ボタンをクリックします。

2 [保持] をクリックします。
[擁壁展開図] ウィンドウが閉じ、
メインメニューへ戻ります。

4 擁壁展開図の作成

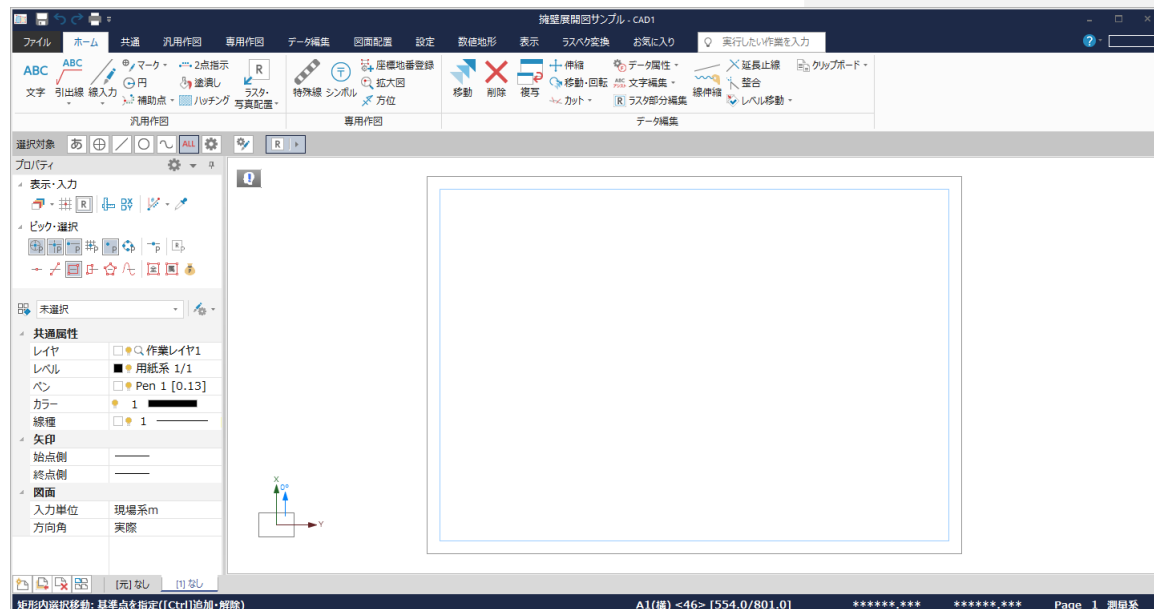
[CAD]に[擁壁展開図]で入力した作業データを読み込み、配置する用紙を選択し、CAD上にCAD製図基準(案)に沿った擁壁展開図を自動作成します。

4-1 [CAD]を起動する



1 [アプリケーション]グループ-[CAD]をクリックします。

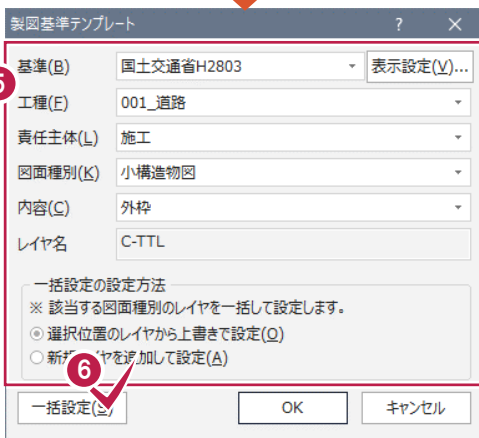
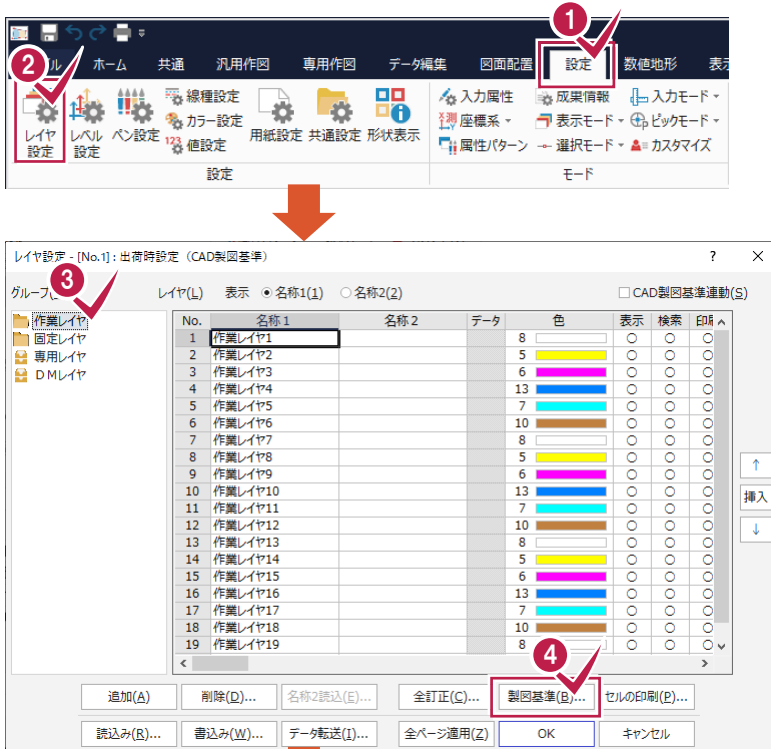
2 [新規作成]をクリックします。
[CAD]ウィンドウが表示されます。



4-2

CAD 製図基準(案)のレイヤを設定する

編集するためのレイヤもCAD製図基準(案)のレイヤに沿って配置するため、作業レイヤにテンプレートを読み込みます。



1 2

[設定]タブ→[設定]グループ
[レイヤ設定]をクリックします。

3

[作業レイヤ]をクリックします。

4

[製図基準]をクリックします。

5 6

下図のように各項目を設定し、
[一括設定]をクリックします。

[基準]: 国土交通省H2803

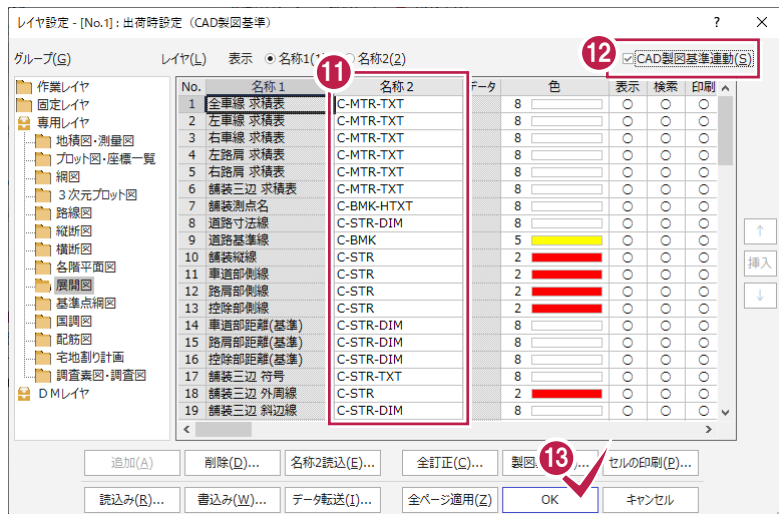
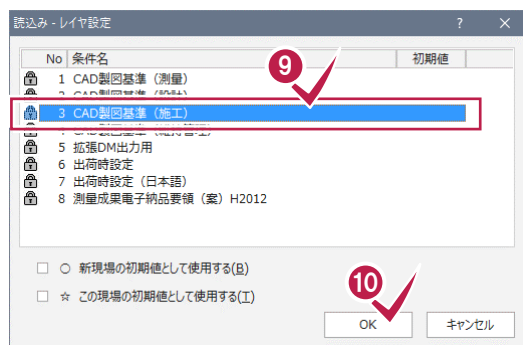
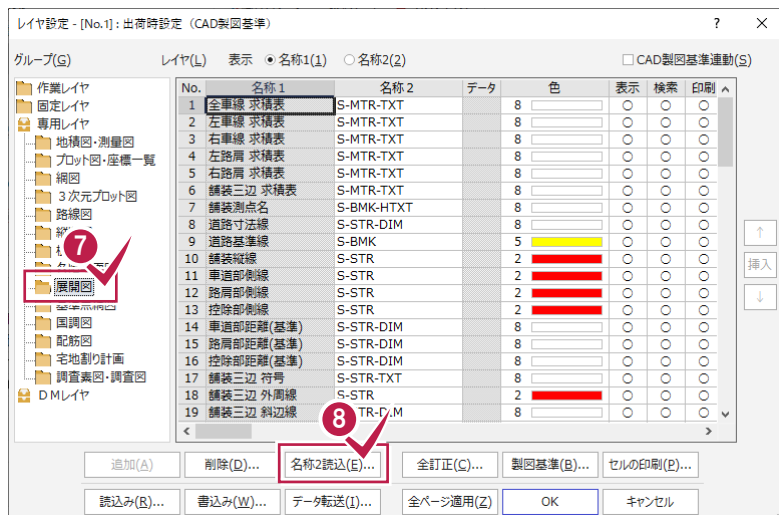
[工種]: 001_道路

[責任主体]: 施工

[図面種別]: 小構造物図

4. 擁壁展開図の作成

続けて、[固定レイヤ][専用レイヤ]の設定を行います。([固定レイヤ][専用レイヤ]は同時に取り込まれます。)



7 [専用レイヤ]の[展開図]を選択します。

8 [名称2読み込み]をクリックします。

9 「CAD製図基準 (施工)」を選択します。

10 [OK]をクリックします。

11 [名称2]の先頭が「C」に変更されていることを確認します。

12 [CAD製図基準連動]のチェックをオンにします。

13 [OK]をクリックします。



【CAD製図基準連動】

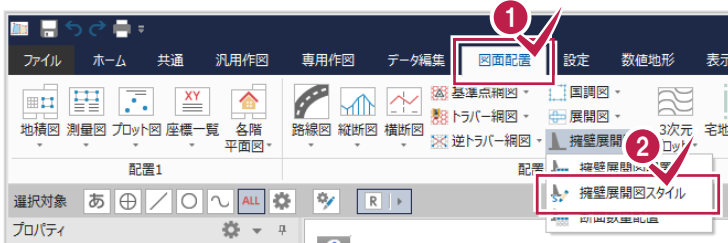
チェックをオンにすると、データを入力するときのレイヤや色などが、CAD 製図基準 (案) に沿った約束事に固定 (連動) されます。
また、レイヤ設定は、基本的にデータ入力前に行います。

4-3

展開図のスタイルを設定する

作図条件を設定します。

コンピュータに図面を自動で描かせるために展開図スタイル(文字のサイズ、位置、向き、線の太さ等)の設定を行います。



1 2

[図面配置]タブ-[配置2]グループ-[擁壁展開図]-[擁壁展開図スタイル]をクリックします。



初期値は、「CAD製図基準(案)」に準拠したスタイルです。



3 [上下距離]タブをクリックします。

4 [タイプ]が「タイプ2」であることを確認します。
各項目の設定内容については、ヘルプを参照してください。

5 [OK]をクリックします。



【書込み】【読み込み】

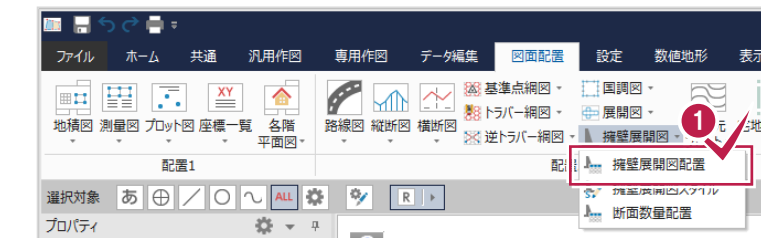
設定内容を変更した場合などは、[書込み]ボタンで設定内容を保存することができます。
この保存した設定は、[読み込み]ボタンで読み込むことができます。

4-4

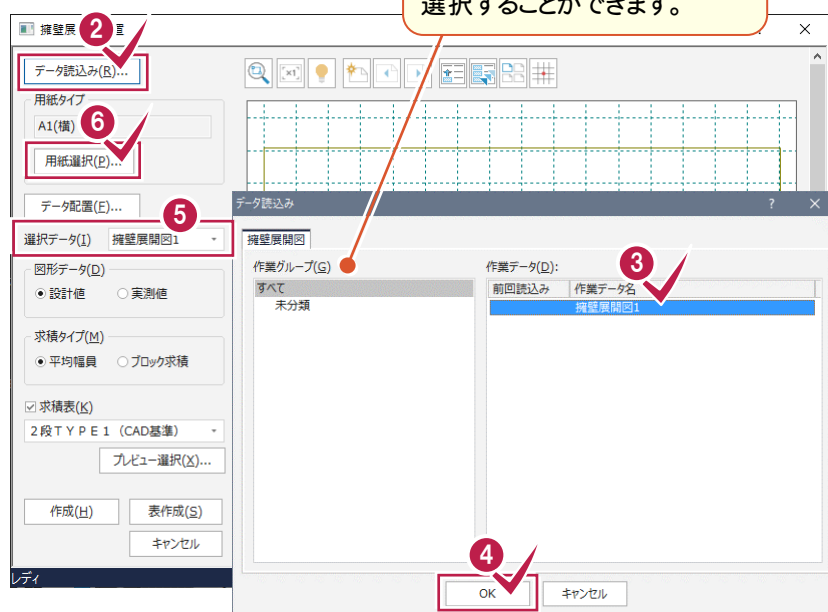
展開図を配置する

〔擁壁展開図〕の作業データを読み込み、用紙サイズ・配置位置を指定してCAD上に配置します。

データを読み込んで用紙を設定する



作業データをメインメニューの作業グループで分類して登録している場合は、ここで作業グループを選んで、作業データを選択することができます。



1 [配置2]グループ-〔擁壁展開図〕-〔擁壁展開図配置〕をクリックします。

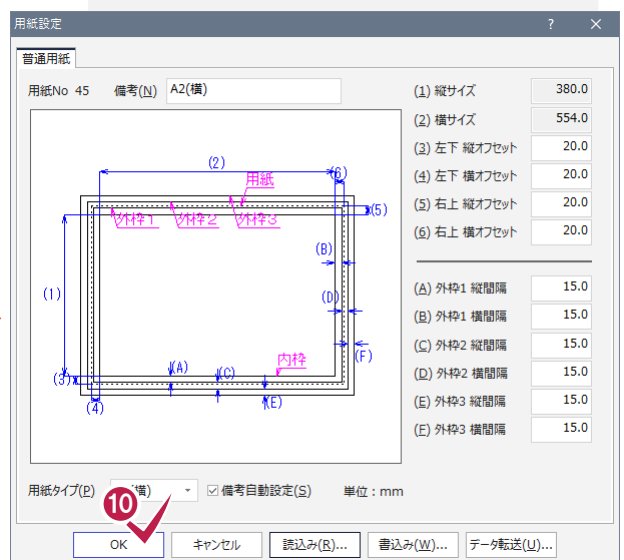
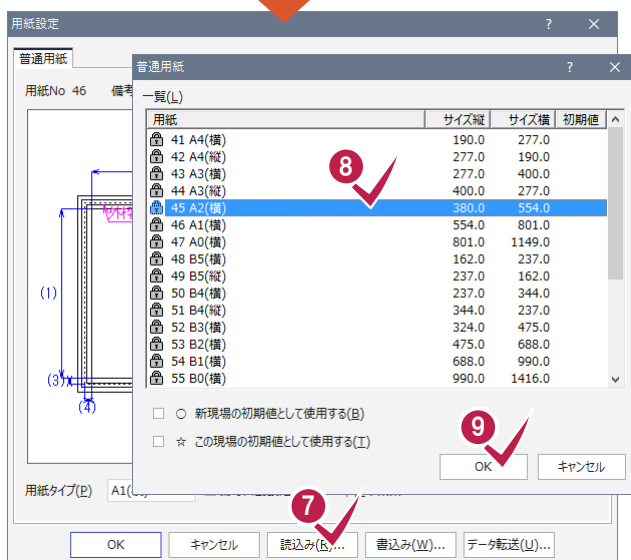
2 3 4 [データ読み込み]をクリックして、読み込む擁壁展開図データを選択して、[OK]をクリックします。

5 [選択データ]に読み込んだ擁壁展開図の作業データ名が表示されていることを確認します。

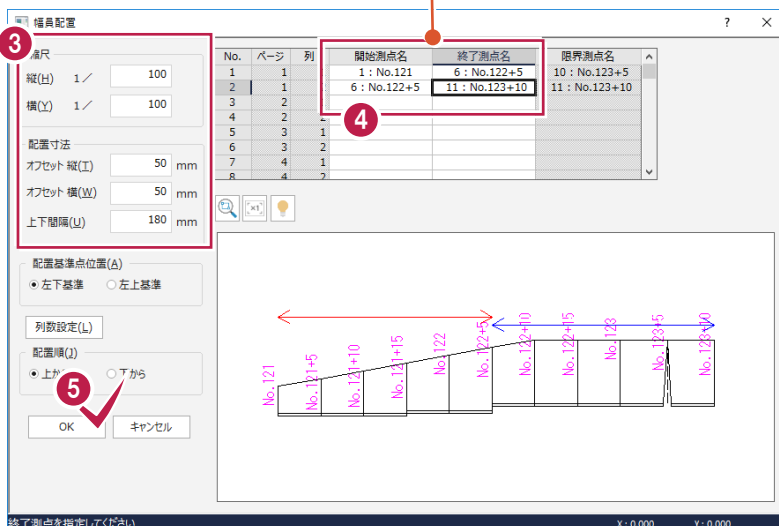
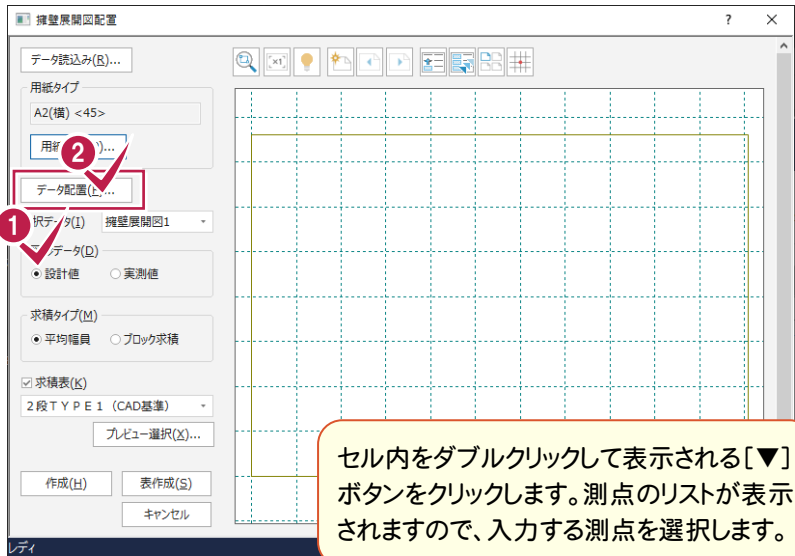
6 [用紙選択]をクリックします。

7 8 9 [読み込み]をクリックして、「45 A2(横)」を選択して、[OK]をクリックします。

10 読み込まれた用紙情報を確認して、[OK]をクリックします。



データ配置を設定する



No.	ページ	列	開始測点名	終了測点名	限界測点名
1	1	1	1 : No.121	6 : No.122+5	10 : No.123+5
2	1	2	6 : No.122+5	11 : No.123+10	11 : No.123+10

1 [擁壁展開図配置]ダイアログで、設計値・実測値のどちらを配置するかを選択します。

[図形データ]: [設計値]を選択

2 [データ配置]をクリックします。

3 縮尺と配置寸法を設定します。

[縮尺][縦]: 100

[横]: 100

[配置寸法][オフセット縦]: 50

[オフセット横]: 50

[上下間隔]: 180

4 配置するデータの範囲を指定します。ここでは全範囲を2分割して配置します。

次のように入力してください。

No1[開始測点名] 1:No.121

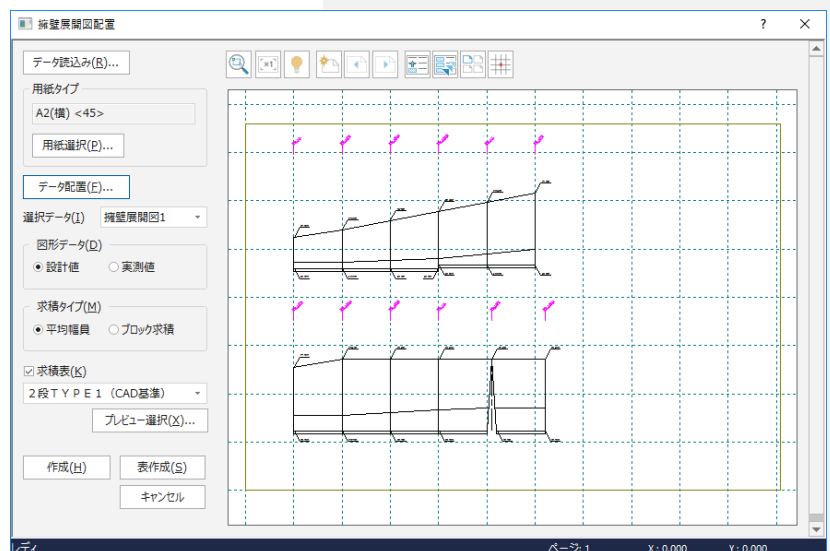
[終了測点名] 6:No.122+5

No2[開始測点名] 6:No.122+5

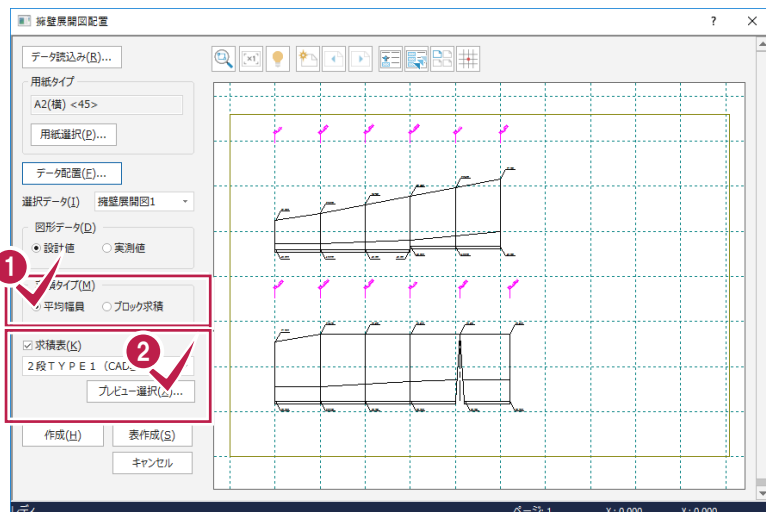
[終了測点名] 11:No.123+10

5 その他の項目を左図のように設定して、[OK]をクリックします。

[擁壁展開図配置]ダイアログへ戻り、データの配置イメージがプレビューされます。



展開図を作成して求積表を配置する



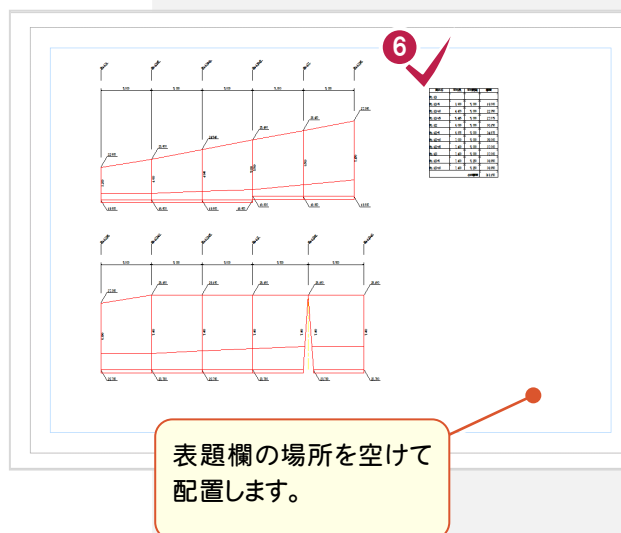
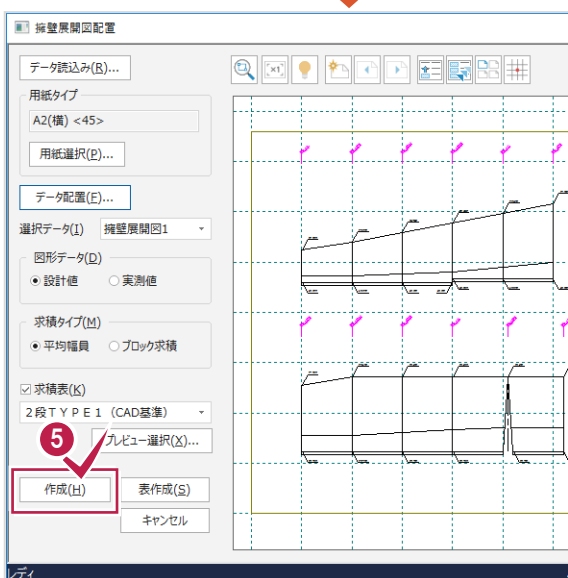
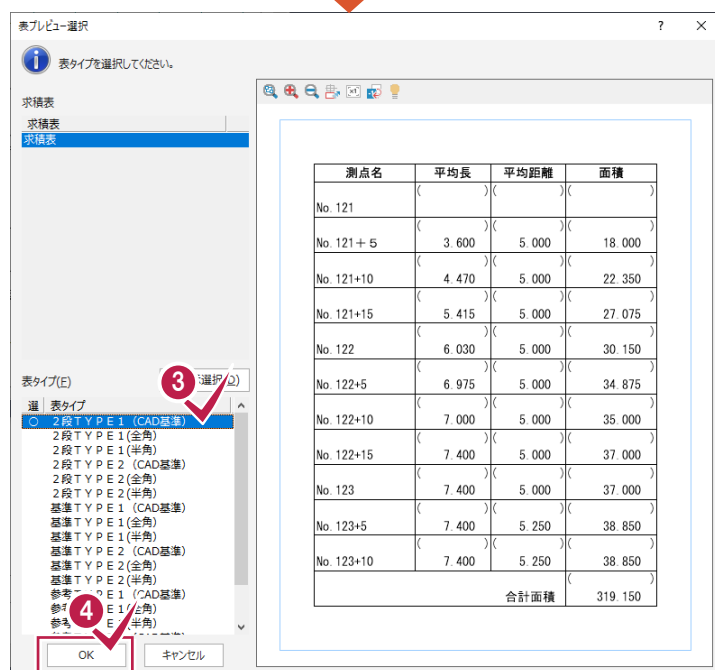
1 求積方法を選択します。
[求積タイプ]: [平均幅員]を選択

2 [求積表]のチェックをオンにし、
[プレビュー選択]をクリックします。

3 4 [表タイプ]から「2段TYPE1
(CAD基準)」を選択して、プレビ
ューを確認し[OK]をクリックします。

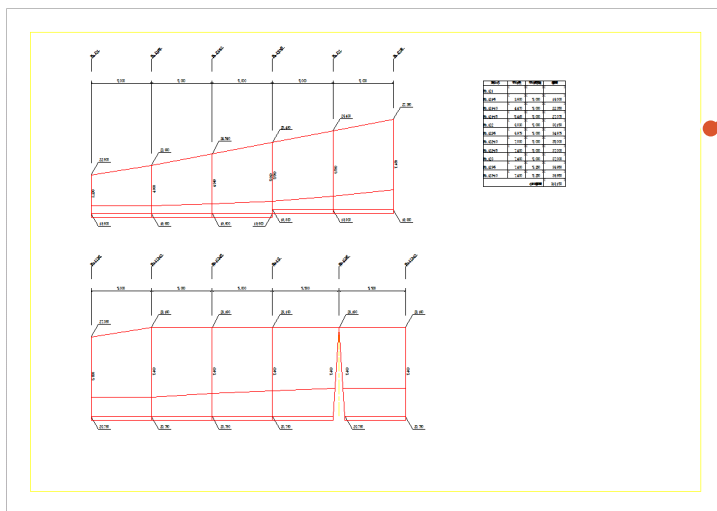
5 [作成]をクリックします。

6 マウスカソールの位置に表が表示
されますので、求積表を配置す
る位置をクリックします。



4-5

図枠を配置する



1 [専用図]タブをクリックします。

2 [図枠・表題]グループ-[図枠]-[図枠]をクリックします。

3 4 [枠設定]タブをクリックして、外枠・内枠、PenNoを下記のように設定します。

[外枠1]:なし

[内枠]:あり

[PenNo]:Pen7[1.00]

5 [OK]をクリックします。

配置された図枠

4-6

表題欄を配置する



図面表題欄

対応種類(R) 国土交通省 16年度以降基準 準拠 表題一覧(M)...

☐ 配置する項目を指定(Q)

表題欄(規定)

工事名(N) ☐ 擁壁展開図サンプル工事

図面名(I) ☐ 擁壁展開図

図面番号(U) ☐ 1 総図面数(A) ☐ 1

尺度(S) ☐ 100

作成 年月日(C) ☐ 令和03年 05月 07日 区切り(K) 和暦

☒ 日付データを有効にする(D)

受注会社名(O) ☐ □□□□□

発注事業者名(W) ☐ △△△△△

事業名(P) ☐

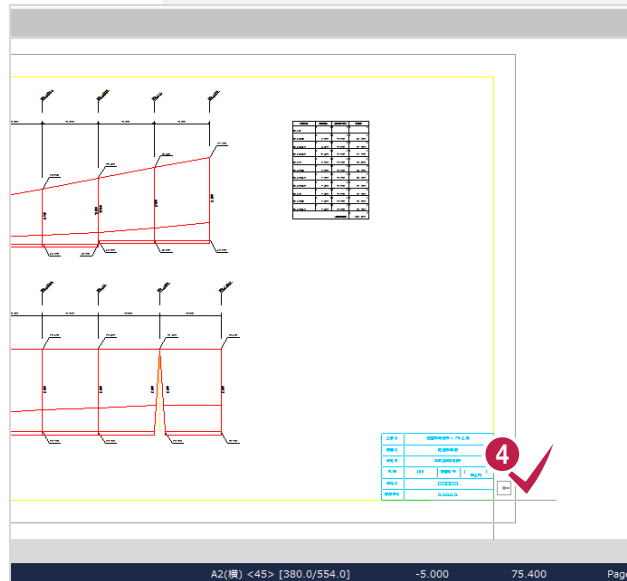
契約区分(I) ☐

図面種別(Y) ☐

追加した項目の配置設定

☐ 文字を配置(G) ☐ 配置せず保持のみ(V) ☒ 表題欄全体を再配置(X)

配置文字設定(L)... 内容保持(H) OK キャンセル



1 [図枠・表題]グループの[表題欄]をクリックします。

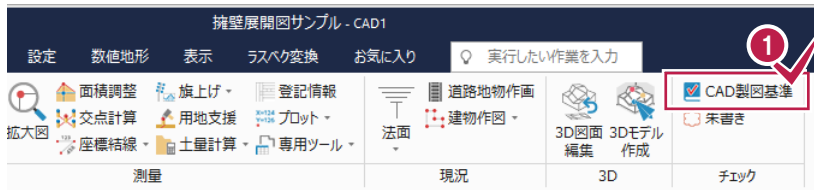
2 3 各項目を左図のように設定し、[OK]をクリックします。

4 図面の右下(枠線の隅部分)をクリックして、表題欄を配置します。

4-7

CAD 製図基準チェックをする

CAD製図基準チェックを実行します。

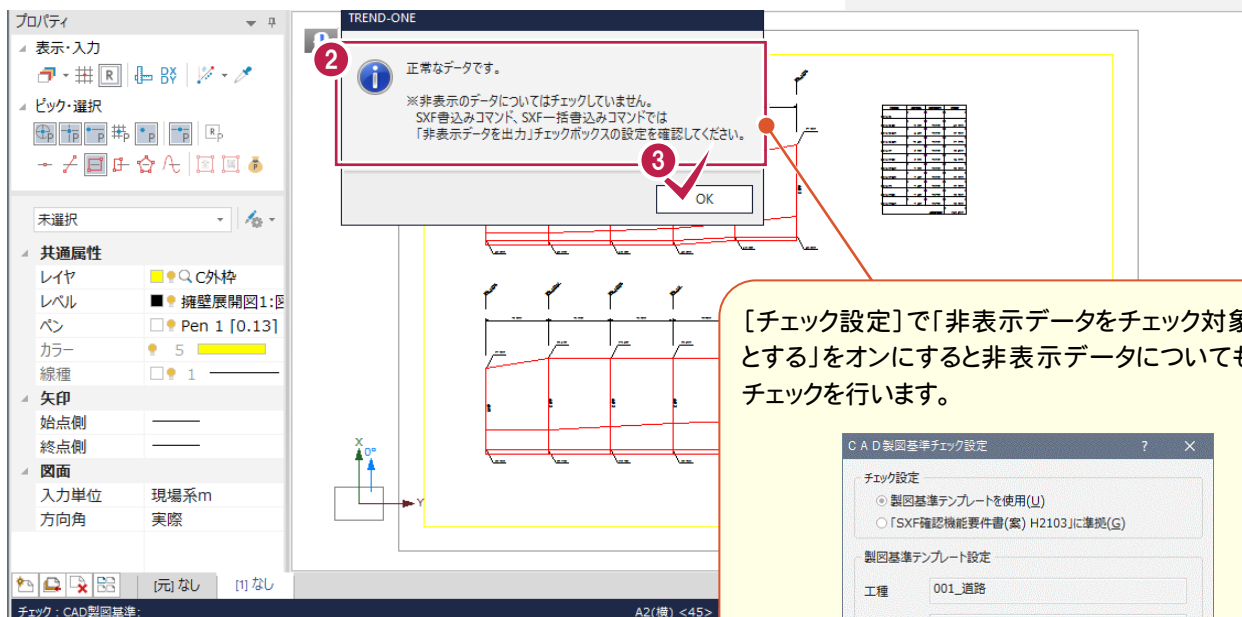


CAD製図基準に準拠されていない箇所が発見された場合には、画面左にチェック結果が表示されます。エラー箇所が発見されたら、一括もしくは個別修正を行います。一括自動修正については、次ページの[メモ]を参照してください。

1 [チェック]グループの[CAD製図基準]をクリックします。

2 CAD製図基準チェックを実行し、すべてのデータが正常であった場合には、図のようなメッセージが表示されます。

3 [OK]をクリックします。



[チェック設定]で「非表示データをチェック対象とする」をオンにすると非表示データについてもチェックを行います。





エラーを一括して自動修正する

CAD製図基準チェック

001_道路：小構造物図

チェック設定... **一括自動修正...** エラー一覧...

No.	エラー内容	該当数	結果
1	レイヤ：色[C-TTL]	4	協

【協議】
C-TTLレイヤには色『黄』を設定してください。
基準外の色が使用されています。
『黒』

内容表示 要素表示

図枠 レイヤ カラー 線種 線幅 文-高 文-F 文-規 協議

共通属性

レイヤ ■ 図枠内枠

線幅 ■ Pen 7 [1.00]

線種 1 線種、カラーを
レイヤから連動(Q)

カラー 1

文字属性

文字列

サイズ 5.00 フォント

属性の変更内容を反映させる

朱書き 朱設定... 再チェック 終了

***** Page 1 測量系

エラー一括自動修正

以下の項目について一括修正を行います。

- ・CAD全体の線幅比率を1:2.4にする。
- ・カラー、線種属性をレイヤがもつカラー、線種に設定する。
- ・文字サイズを規定のサイズ(1.8, 2.5, 3.5, 5, 7, 10, 14, 20)にする。
- ・文字フォントを規定のフォントにする。
- ・禁則文字を交換する。
- ・位置図・平面図で使用されている部分図のレベルを測量座標系に変更する。
- ・輪郭線・表層線レイヤ(-TTL, -FRAM)要素のレベルを用地系に変更する。

☒ 線幅の修正を行う(L) [0.13(ペン1), 0.25(ペン3), 0.50(ペン5)]

☒ 輪郭線を修正する(B) ☒ 寸法線・引出線を0.13mmにする(D)

カラー、線種の修正を行う

☒ カラー属性をレイヤに合わせる(C) ☒ 線種属性をレイヤに合わせる(S)

文字エラー

☒ 禁則文字の交換を行う(X)

☒ 文字サイズの修正を行う(L)

サイズ調整 ☒ 近いほうにする(N) ☒ 小さい(L) ☒ 大きい(B)

例) サイズが6.00の場合
☒ 5.0にする ☒ 7.0にする
☒ 5.0にする ☒ 7.0にする

☒ 文字フォントの修正を行う(F)

交換フォント(E) MS ゴシック

☒ 輪郭線・表層線レイヤ要素のレベルを用地系にする(Y) ☒ 座標系の修正を行う(W)

OK キャンセル

TREND-ONE

4個のエラーを修正しました。

OK

- 1 [一括自動修正]をクリックします。
- 2 修正内容の確認と設定を行います。
操作例では確認のみとします。
- 3 [OK]をクリックします。
自動修正処理が実行され、終了するとエラー個数の確認メッセージが表示されます。
- 4 [OK]をクリックします。
エラー箇所が修正され、チェック結果から修正したエラー要素の表示が消えます。

エラー箇所がすべて修正されていることを確認します。

CAD製図基準チェック

001_道路：小構造物図

チェック設定... **一括自動修正...** エラー一覧...

No.	エラー内容	該当数	結果
1			

内容表示 要素表示

図枠 レイヤ カラー 線種 線幅 文-高 文-F 文-規 協議

共通属性

レイヤ

線幅

線種

カラー

文字属性

文字列

サイズ 5.00 フォント

属性の変更内容を反映させる

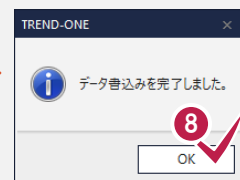
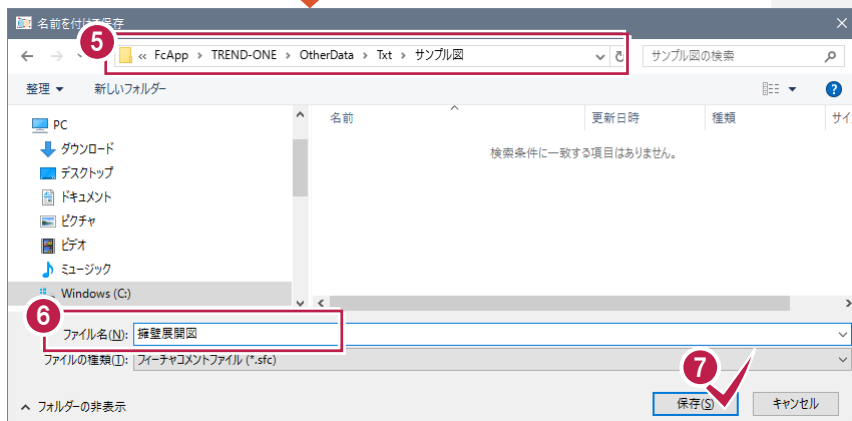
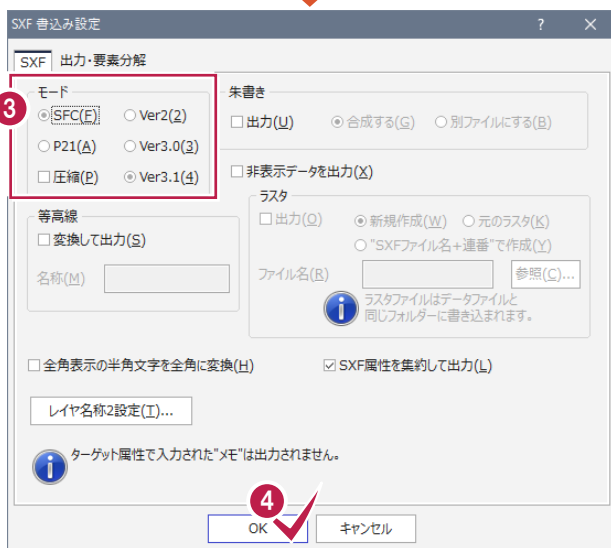
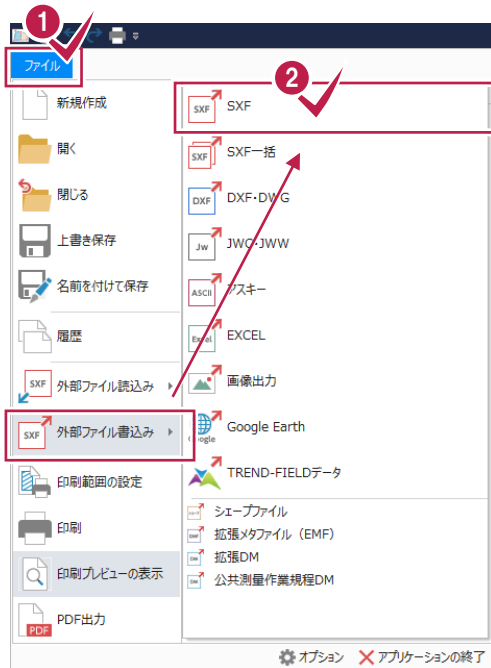
朱書き 朱設定... 再チェック 終了

***** Page 1 測量系

4-8

SXF データに保存する

CAD製図基準に準拠したデータをSXF仕様のデータに保存します。



1 2

[ファイル] タブー [外部ファイル書き込み] - [SXF] をクリックします。

3

ファイル形式、SXFバージョンを設定します。

4

[OK] をクリックします。

5

保存先 (任意のフォルダー) を設定します。

6

保存するファイル名を入力します。

7

[保存] をクリックします。

8

保存処理が実行され、完了すると確認のメッセージが表示されますので、[OK] をクリックします。

5 現場データの保存

ONEでの作業データはメモリ上に保存されているために、[ファイル]ー[名前を付けて保存]コマンドもしくは[ファイル]ー[上書き保存]コマンドを実行するまでハードディスクに保存されていません。

ハードディスクに保存せずに、ONEを終了したり、コンピューターの電源を切ったりするとデータが消滅します。

[上書き保存]と[名前を付けて保存]の違いは、現場ファイル名を変えずにそのとき保存するか、名前を変えて別ファイルに保存するかです。

新規の現場データでは[名前を付けて保存]、内容を変更してそのまま保存する場合は、[上書き保存]を選択します。

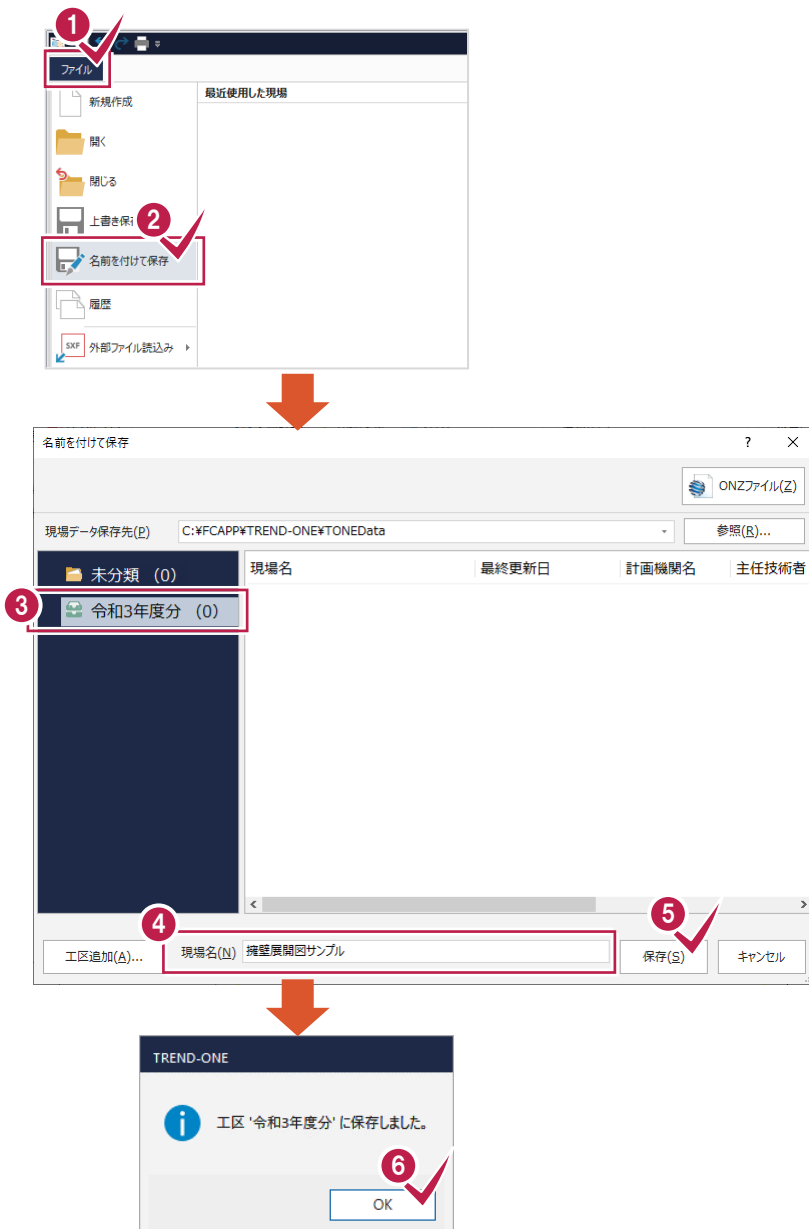
こまめに保存することで、不慮の事故によってシステムダウンした場合に影響が少なくて済みます。

作業データを入力・変更したとき、各作業を終了するたびに保存することをお勧めします。

ただし、作業データ単位での保存はできません。

[ファイル]ー[名前を付けて保存]コマンドを実行して複数の作業データを1つの現場データとして保存します。

5-1 現場データを保存する



1 2
[ファイル]タブー[名前を付けて保存]をクリックします。

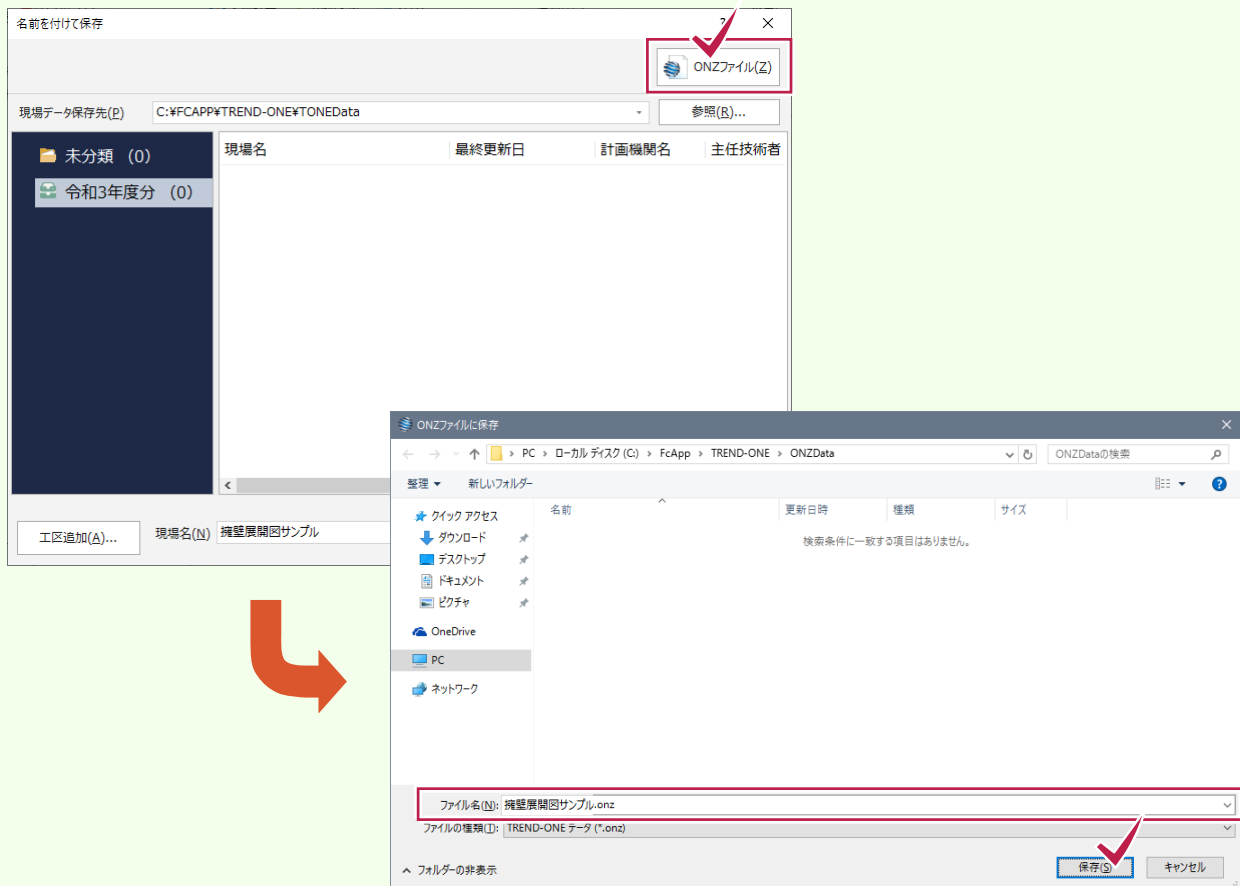
3 [工区]を確認します。
4 [現場名]を確認します。
5 [保存]をクリックします。

6 [OK]をクリックします。



ONZ ファイルについて

[名前を付けて保存]ダイアログで[ONZ ファイル]を選択すると、データを onz 形式に圧縮して指定したフォルダーに保存することができます。



上書き保存について

上書き保存を実行すると、前回保存したデータに上書きされ、前回のデータはなくなります。

前回のデータを残す場合は、[ファイル]－[名前を付けて保存]コマンドを使用してください。